

2014 - 2021 活動報告書

かわさき多摩丘陵

グリーン・コンソーシアム



Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市

かわさき多摩丘陵グリーン・コンソーシアム 活動報告集

かわさき多摩丘陵グリーン・コンソーシアムとは？

人と自然が共生する持続可能な里山環境を目指すために、植物相による環境形成作用を高める管理手法の構築や、地球環境を踏まえた緑地がもつ様々な機能の発信を効果的に行うことが必要です。

そのため、平成 22 年から、川崎市と**玉川大学農学部**、**明治大学農学部**、**東京農業大学地域環境学部**の3校が協力し、保全された緑地の多様な自然環境の維持・再生について研究を進めています。その研究成果は大学間、行政間との相互交流を進めて有効活用し、「**かわさき多摩丘陵グリーン・コンソーシアム**」の構築を目指しています。



写真 1 連絡会議（令和2年度）

協力の目的

- 1 生物多様性の保全と生態系サービス（生態系機能の働き）という視点から、保全緑地※での管理手法を見出す。
- 2 里山と人との共生について、100年先の里山環境の形を理念に、科学的な関わり方を見出す。
- 3 大学の社会貢献の発信によって、環境学習機会を高め、次世代を担う子どもたちの育成を目指す。

※保全緑地：特別緑地保全地区、緑の保全地域、緑地保全協定、ふれあいの森及び保全樹林などの緑地保全施策の図られている緑地

川崎市の保全緑地の現状

川崎市が取得している特別緑地保全地区と緑の保全地域の合計面積は、令和2年度末時点で約 110ha（指定面積の約 65%）です。公有化した保全緑地については、ワークショップを行い、保全管理計画を策定し、緑地の管理方針や内容を定め、市民や企業といった多様な主体との協働による維持管理を推進しています。

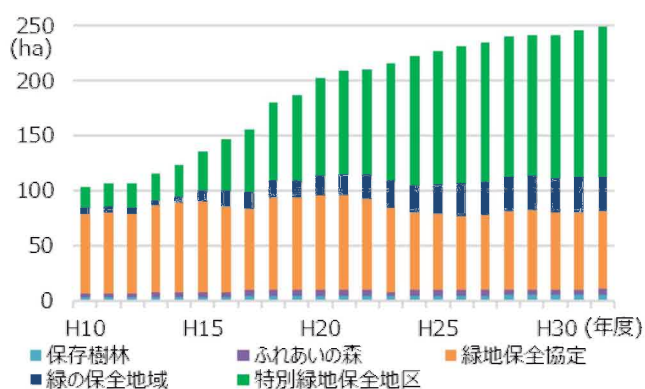


図 1 保全緑地の指定面積推移（令和2年度末時点）

生物多様性の保全や樹木の特性に配慮した植生管理についての調査研究を進めることで、里山管理手法に反映させることができ、今後の保全緑地の維持管理の一助になることが期待できます。

研究テーマ

玉川大学

拓伐による雑木林の生産力及び多様化の変化について

明治大学

- (1) 保全緑地の植生管理及び生物多様性の基礎調査・研究
- (2) 保全緑地の有効活用方法の研究
- (3) 地域の文化や技術の継承方法の研修

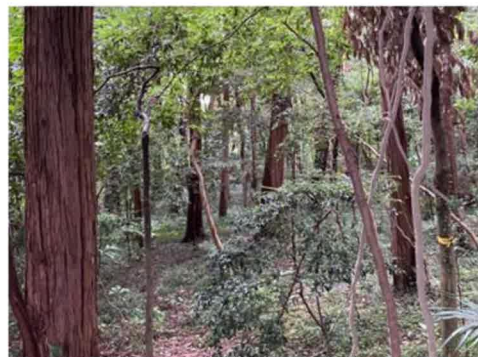
東京農業大学

林床管理が生態系に及ぼす影響

研究対象地と研究する大学



岡上杉山下特別緑地保全地区（麻生区岡上1355-1ほか） 1.4ha



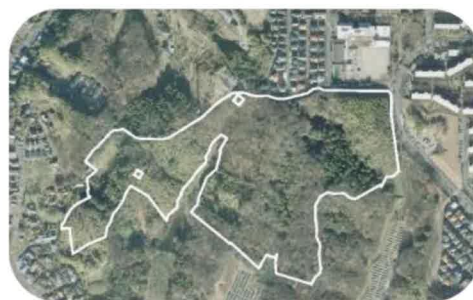
岡上杉山下特別緑地保全地区は、住宅地や農地に隣接する緑地で、谷戸の尾根上に位置します。南側から北側に向っている斜面地で、主にヒノキが優占する針葉樹林となり、部分的にコナラ群落も広がっています。

西黒川特別緑地保全地区（麻生区黒川字西谷 1 6 7 8 - 7 ほか） 4.7 ha



西黒川特別緑地保全地区は田んぼや農地に隣接する緑地で、周囲には三沢川や用水路があります。谷戸を囲むような地形で、斜度の高い斜面地です。主にコナラが優占する落葉広葉樹林からなり、部分的にヒノキの針葉樹林も存在します。

早野梅ヶ谷特別緑地保全地区（麻生区早野字梅ヶ谷 9 7 5 - 2 ほか） 9.3 ha



早野梅ヶ谷特別緑地保全地区は、隣接する早野聖地公園とともに、散策やバードウォッチングで多くの方に利用されています。緑地の大部分が、コナラが優占する落葉広葉樹林であり、一部にスギ・ヒノキの針葉樹林も存在します。